

平成 21 年度 法科大学院（法務研究科）入学試験

小論文問題紙

A日程

平成 20 年 10 月 25 日

10 : 00 ~ 12 : 00 (120 分)

(200 点)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、問題を開いてはいけない。
2. 小論文の問題紙は 1 ページから 3 ページである。
3. 解答用紙は、問 1、問 2 および問 3 の 3 枚である。解答用紙の追加は認めない。
4. 解答用紙は 3 枚ともかならず提出すること。
5. 監督者の指示に従い、すべての解答用紙に受験番号と氏名を記入すること。
6. 解答はすべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
7. 試験終了まで退室してはいけない。

北 海 学 園 大 学

問題 次の文章を読み、下記の設問に答えてください。

「命の尊厳」を生徒に教えるために、福岡県のある県立高校で一年生を対象に「命の授業」がおこなわれた。この授業で生徒は、各自一個の卵が与えられ、それぞれ卵からヒヨコを孵化させ、ニワトリになるまで育て、最終的に自ら解体して食すことになっている。目的は「命の喪失」を実際に体験することで、「命の尊厳」を実感することにあるとされている。

この授業に参加した生徒の感想が各段階で報告されている。孵化から飼育の時点では、「恐る恐る孵化させたヒヨコはとても可愛かった」、「毎日餌をやり、水を替えて世話をした。最初はピヨピヨと鳴いていた声がかんたん低くなり、羽もどんどん大きくなり、色も黄色から茶色になってニワトリらしくなった」などの感想がある。

ニワトリの成長は早く、二ヵ月後には解体することになった。「解体するニワトリを絶食させるため別のカゴに入れた。明日殺されると知らずカゴの中に座っているニワトリを見て、とても悲しくなった」、「明日ニワトリを殺す。自分たちで育てたニワトリを、自分の手で殺すのは辛く苦しい。命の大切さを学ぶためといっても、どうして殺さなければならぬのか」などの感想が記録されている。

解体日を迎え、生徒二名が組になり、一名がニワトリを押さえ、一名が頸動脈を切ることになる。生徒の感想には「前半の組の人が殺しているのを見て涙が出た。手足が震えた。とても恐かった」、「殺すなら動脈を一回で切ろうと思っていたが、できなかった。一回目には深く切れず、二回も切ることになった。首を切ると真っ赤な血が出てきて、ニワトリは脚をバタバタさせて死んでいった」、「すんだあと、とても不思議な気持ちになり、手が震え、涙が出てきた。言葉では言い表せない気持ちだ。でも、この気持ちが大切なのもかもしれない」などが残っている。

最後に、解体したニワトリを熱湯に浸し羽をむしり、皮と内臓を切り離し、肉を取り出すという作業をおこない、鶏ガラでだしをとって水炊きにする。「水炊きを前にみんなで『いただきます』と言った。初めて心のそこから『いただきます』と言えたのだと気づいた。この言葉の意味がこんなに深いとは知らなかった」という感想が述べられている。

この高校の「命の授業」は、2001年、全国の学校の中から「創造性に富んだ教育を実践した学校」に贈られる文部科学大臣奨励賞などを受賞した。授賞理由は「生きものの命と人間の宿命を感得することで、『命の尊厳』を『人と人とのあり方』にまで昇華させていることを高く評価した」というものであった。この授業のようすは、テレビのドキュメンタリー番組としても全国放映され、注目を集めた。放送直後、「命の重さを実感できた」、

「意義深い」といった評価する意見と同時に、「ショックを受けた」、「残酷すぎる」などの反対意見も多く寄せられたそうである。

その後、同様の「命の授業」が秋田県のある町立小学校でも実施された。しかしこちらは、直前に解体が取りやめとなった。解体を嫌がった生徒の保護者が教育委員会に連絡し、教育長が校長に中止を命じたからである。

現在、日本国内では年間約10億羽のプロイラーが食肉用に解体されており、平均すれば、すべての日本人が1ヶ月におよそ1羽のニワトリを消費していることになる。この「命の授業」を高く評価するある識者は、「10歳の子どもの命には、すでに百羽ものニワトリの命が組み込まれている。にもかかわらず、その屠殺場面に一度も立ち会ったことがない。それは不自然で異様なことだ。まさに子どもたちは『死』から隔離されているのだ」と述べている。

(なお、本文は以下の資料などを参考に作成した。

- ・鳥山敏子、『いのちに触れる』、太郎次郎社、1998年。
- ・村山淳志、『「いのち」を食べる私たち』、教育資料出版会、2005年)

問1 このように、ある高校の「命の授業」は高く評価された一方で、中止の判断がされた学校があるように、この種の授業を行き過ぎとみなし否定する意見もあり、賛否が分かれています。まず、「命の授業」に賛成する立場の人々が、それを望ましいと考える理由は何か、簡潔に述べてください。(30点)

問2 「命の授業」を望ましくないとは主張する立場に立ち、少なくとも二点の論拠をあげ、「望ましくない」と結論できることを論証してください。(100点)

問3 最初にこのような形態の授業をおこなったのは、東京都の区立小学校教諭鳥山敏子氏だと言われている。氏はその著書で「自分の手ではっきりと他のいのちを奪い、それを口にしたことがないということが、ほんとうのいのちの尊さをわかりにくくしているのだ。殺されていくものが、どんな苦しみ方をしているのか、あるいは、どんなにあっさりとそのいのちを投げだすか、それを体験すること。ここから自分のいのち、人のいのち、生きもののいのちの尊さに気づかせ」ることが必要だと述べ、子どもたちや大人が自分のペットは大切にする一方で、他人の殺した生きものを平気で食べていることや平気で食べ物を捨てていることに対し、それは不平等ではないかと問いかけている。

「不平等」という観点から、「命の授業」を必要だとする立場に対し、反論をおこなってください。ここで言う「反論」とは、「不平等」とする理由や、その理由から導かれる結論を吟味し、「命の授業」の必要性が必ずしも立証されないことを論じることで。(70点)